表 シカゴ連銀経済報告（2023年9月6日公表）

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は緩やかに（moderately）増加 賃金は緩やかに（moderately）上昇	製造業では、需要の鈍化に対応するため、派遣労働者の数を減らし、労働時間を短縮している。賃金・福利厚生費は緩やかに上昇したが、複数の関係者は賃上げペースの鈍化を指摘した。
物価	緩やかに(moderately)上昇	物価は7～8月上旬に緩やかに上昇し、関係者は今後1年間も同様の上昇率を予想した。非労働コストは小幅に上昇し、特にエネルギーコストの上昇を強調する関係者が多かった。一部の原材料価格は伸びが鈍化し、他の原材料価格は下落した。消費者物価は、堅調な需要とコスト上昇の転嫁により緩やかに上昇した。
個人消費	わずかに（slightly）増加	非耐久消費財の売上げは、食料品店、ガソリンスタンド、コンビニエンスストアで増加した。一方、耐久消費財の販売はまちまちだった。レジャーおよび接客業への支出はやや鈍化したが、高水準を維持した。航空旅行とホテルの支出減少は、観光地や遊園地での支出増加を相殺した。自動車の新車・中古車販売台数は、手頃な価格の車種が増えたこともあり増加した。
企業支出	わずかに（slightly）増加	大半の小売業者の在庫は、希望よりやや多いとの報告があった。自動車の在庫は前回の報告からほとんど変化はなく、低水準であった。製造業では、需要が低迷する中、在庫はやや増加した。
建設と不動産	ほぼ変化なし（little changed）	住宅建設は全体的にやや増加した。住宅用不動産の動きは、在庫の少なさが販売を抑制したことによってわずかに減少した。住宅は急速に売れており、その多くが複数のオファーを受けている。非住宅建設はほとんど変化なかったが、一部の関係者は、環境調査、土地調査、投機的開発のための資金調達など、将来の活動の先行指標が後退していると指摘した。一方、州や地方の多くの建設プロジェクトに進展が見られた。商業用不動産の動きは横ばいであった。関係者によると、多くの投資家はさらなる価格下落を予想して商業用不動産の購入を控えているという。
製造業	わずかに（slightly）減少	サプライ・チェーンの状況は引き続き改善したが、産業用電気部品のような特殊品目の入手が困難であるとの報告もあった。自動車業界からは、一部の工場でサプライチェーンが寸断されたにもかかわらず、自動車生産が増加したとの報告があった。
金融	緩やかに（moderately）引き締まった	金融情勢は緩やかに引き締まった。債券および株式市場の資産価値はわずかに減少し、ボラティリティ（値動きの大きさの度合い）は上昇した。企業向け融資の需要は報告期間中にわずかに減少し、融資の内容は変化がなかった。事業融資の金利はやや上昇し、基準は緩やかに引き締まった。消費者向け融資の需要も小幅に減少し、融資の内容は若干悪化した。複数の担当者がクレジットカード債務の増加を指摘したほか、ある担当者は自動車およびカード債務の延滞がパンデミック前の水準に戻ったと報告した。消費者ローン金利は緩やかに上昇し、貸出基準は緩やかに引き締まった。
農業	2023年の農業所得の見込みは2022年を大幅に下回る	干ばつの懸念は全体的に軽減されたが、期間終盤の高温の天候が中西部の広範な作物の生育を妨げた。豚の価格は最高値に達した後、下落に転じた。乳製品の価格は低水準から上昇し、卵の価格はわずかに上昇した。牛の価格は再び上昇し、1年前の価格水準を上回る数少ない品目のひとつとなった。農地価格は依然として前年を上回っている。
地域社会の状況	経済活動にほぼ変化はなし（little change）	一部の中小企業融資担当者は、景気不透明感を背景とする融資需要の鈍化を指摘した。非営利団体は、民間企業との賃金競争に加え、その他の運営コストの増加という課題に引き続き直面している。非営利団体は、支援サービスに対する需要の高まりは、食糧不安の深刻化に対処する活動を困難にしていると述べた。

（出所）シカゴ連銀経済報告を基にジェットロ作成